

CONTENTS

吉澤靖之次期学長からのメッセージ ——— 4

特集
大山喬史学長 ——— 5
ロングインタビュー

医療研究★最前線「未来医療を拓く」—— 16

生体材料工学研究所 高久田和夫教授
医歯学総合研究科 森山啓司教授

附属病院◎診療科訪問 ——— 18

医学部附属病院
不整脈センター

卒業生の今「活躍する医科歯科人」—— 19

澤田デンタルオフィス 院長
澤田則宏氏

医科歯科大生File ——— 20

「自ら問い、自ら導く学生たち」
歯学部口腔保健学科3年 立川皓太さん

医科歯科百景② ——— 21

Campus Information ——— 22



今号の表紙

医学部附属病院前のメタセコイアは、1956年に医学部7回生が古畑種基教授の文化勲章受章を記念して植樹したものです。天高くそびえ、四季折々の姿を見せる姿は、訪れる人の目を楽しませてくれます。



M&Dタワー26階の特別会議室には、歴代校長・学長の写真が掲げられています。知と匠の創造者たちが繋いできたバトンが今、新学長へ渡されようとしています。

6年間の任期を 振り返って

東京医科歯科大学学長 大山喬史

この度、2008年から6年間にわたって務めてきました東京医科歯科大学学長としての職務を終えることになりました。

振り返ると、様々な大学改革にチャレンジさせていただいた6年間だったと思います。就任の翌年に本学のミッションを「知と癒しの匠を創造する」と定め、医療系大学の使命である「教育」「研究」「医療」「地域・国際貢献」の面で、学生および教職員の方々が最高のパフォーマンスを発揮できるように、制度・環境整備を進めてきました。

国立大学法人化からの第1期中期目標・計画を経て、2010年度に第2期中期目標・計画が始まり、数々の新たな取り組みが一気に走り出しました。理事体制、副学長体制を含むガバナンスを強化し、国際貢献の推進については、特に注力しました。

ガーナ、チリ、タイの海外拠点を中心とした学術交流では、各国の健康政策に貢献できるよう支援を実施。また、米国ハーバード大学や英国インペリアルカレッジとの提携により、今では国際社会のリーダーとして活躍できる医療人が本学から育ちつつあります。

これからの高齢者医療においては、専門分野のみならず、医科・歯科が互いに基礎知識と病態生理を理解し、協調的包括的な医療を提供することが求められます。2011年から本

格始動した医歯学融合教育は、こうした社会のニーズに応える重要なカリキュラムだと考えています。

本学は、再生医療分野をはじめとした基礎研究において数々の成果を挙げています。そのような実績もあり、2013年度には文部科学省「研究大学強化促進事業」に採択されました。産学官連携を一層拡充させて未来への成果を生み出すべく、現在、学内では戦略的な研究体制を構築する準備が整いつつあります。

次期学長の吉澤先生には、形にはとらわれず、自身の信念に従いながら、リーダーシップを発揮していただきたいと考えています。立ち止まらず、動き続けていれば必ず変化していくはずです。世界を先導する、これからの東京医科歯科大学に、大いに期待を寄せています。